

トロンボーン, 吹奏楽・アンサンブル アドバイザー



田村 和久

栃木県宇都宮市生まれ 5歳からピアノを、11歳からトロンボーンを始める

宇都宮短期大学附属高校音楽科、東京コンセルヴァトアール尚美 管弦打楽器部門トロンボーン専攻 音楽社会研究コース 卒業

第7回栃木県学生音楽コンクール管楽器部門 第1位。

第7回大阪国際音楽コンクール アンサンブル部門 入選。

第2回横浜国際音楽コンクール アンサンブル部門 第2位(1位なし)入賞

トロンボーンを亀谷彰一・山田裕治・関根五郎・高島 省の各氏に師事。

ピアノを鈴木道子・伊藤浩子の両氏、音楽理論、編曲法、指揮法を故 原谷 宏氏に師事 現在、トロンボーン奏者、及びバンドトレーナーとして各地で活動中

Brass Musicians BAZ'R メンバー サウンドウィズメンバー

一般社団法人MCFオーケストラとちぎトロンボーン奏者

音楽事務所「サウンドウィズ」代表

日本管打・吹奏楽会、日本トロンボーン協会会員

全国生涯学習音楽指導員協議会 栃木・群馬 代表

宮ままプラスおよび宇都宮ウインドクルー常任指揮者

宇都宮短期大学音楽科・同附属高等学校音楽科講師

1. 普段の練習

ホールで演奏できる機会はあまりありません。

何の準備もなくただ練習をして演奏当日を迎えるとホールの雰囲気にもまれてしまいます。普段からホールの広さ・空間をイメージして、音量設定やダイナミクスの変化をつけておけば、本番は《練習通り！》と少し余裕が持てます。

ホール客席の写真を見える位置に貼って練習をしたり、グループ・団体の場合は実際にホールを借りてホール練習を行うのも効果的です！



2. ステージに出たら

呼吸は浅く、身体は緊張で固まっていませんか？

深呼吸をしてホールの空気を体内に取り込んで、身体をほぐしてから演奏に入りましょう！ 立ったり座ったり、演奏スタイルは様々ですが、その位置や角度は重要です。

ピアノ伴奏を伴う時はピアノとの距離や立ち位置、演奏の向きなどは本番中のアンサンブルにも影響します。

譜面台を使用する時はその場所や高さ、角度もチェックしましょう。

ステージ照明の関係で見えにくくなってしまふ事もあります。



3. 演奏では

ホールの空間を感じて響かせましょう。

見えている客席だけが空間ではありません。頭上や足元、背後にも空間は広がっています。身体から発せられたエネルギーが立体的に響きわたるイメージが出来るといいですね。

もしリハーサルやホール練習などで事前に響き方を確認できる時は、どこに向けて演奏すればよく響くのか知っておくと、より確実に表現できます。



～まとめ～

〈響き〉とは残響など遠くのものだけをイメージしてしまいがちですが、ステージ内の近いところにも、ソロ楽器とピアノ、管楽器どうし、打楽器同士など、お互いの存在が確認できてこそ、良いセッションができます。アイコンタクトが出来る位置関係、呼吸が感じられる距離感が大切です。

大きな広い場所で頑張っって響かせようと突然何かしようとするれば、姿勢や演奏スタイル を無理に変えることになり、手や指が動かない、息が続かないなど悪循環に陥ります。手元や口元が良い位置で演奏出来ているかもチェックしましょう。

最初にも挙げましたが、これらをシュミレーションしながら練習することが必要です！ ホール体験は、間違いなくあなたを成長させてくれることでしょう。